



スコットランドの風

2015年5月29日（金）英国大使館にて第3回 NPO 法人日本スコットランド交流協会総会が定款第27条の定める要件を満たし開催されました。（会員数209人に対して出席者61人、委任状58人、計119人）

冒頭、関妙子会長から Stirling 大学での Japan Center 設立が進行していることと参議院議員古川俊治先生（オックスフォード大学卒業）から祝電をいただいたことが伝えられました。また、当日はスコットランドに縁のある3組のゲストにお越しいただき、総会に華を添えていただきました。1組目は2015年2月に Stirling 大学で開催された Japanese Week の推進者・同大学開発渉外担当部長 Kerry Bryson (JSA 会員) 氏と副学長 MacLeod 教授。2組目は NHK ドラマ「マッサン」でお馴染みの竹鶴孝孝氏（ニッカウキスキー創設者）のお孫さん、竹鶴孝太郎氏。最後にマーマレード発祥の地、英国で開催された The World's Original Marmalade Awards（世界オリジナルマーマレード賞）で銀賞と銅賞を受賞された村松正規・陽子ご夫妻です。

続いて、議長の山口謙治氏によって議事進行が行われ、26年度事業報告及び活動計算書（2014.4.1～2015.3.31）、監査報告が満場一致で承認されました。事業報告では各支部の活動が紹介されました。東京本部では月2回開催の英会話教室や第2回文化講演と JSA 奨学金生帰朝報告会など、関西支部ではスコットランドナイトや料理教室など、九州支部では Stirling 大学留学事前研修、東北支部では地域文化教育学会（AREC）第4回全国大会特別発表、各支部でそれぞれ特色ある活動が行われています。また東京本部事務局の新スタッフとして齊藤七生氏（事務長）、飯村英人氏（副事務長）、穂積ユリ子氏（会計）が就任したことも紹介されました。26年度は新たに93名もの方々を会員に迎え、JSA にとって飛躍の年ともいえるものでした。



引き続き開催された懇親会は、総勢98人の方々にご参加頂き、スコットランド男性の正装であるキルト姿の山形氏のバグパイプの曲を合図に始まりました。開会の辞は、スコットランド国際開発庁日本代表で JSA 名誉大使である Stephen Baker 氏から、昨今のスコットランドと日本のビジネス事情を堪能な日本語でご説明頂きました。昨年9月のスコットランド独立を問う住民投票以来、日本企業の進出数も増加し、お互いが重要なビジネスパートナーになっているとのこと。経済面においても強い絆を深めている両国の現状を知り、将来への期待を感じました。今回で4度目の来日となる Kerry Bryson 氏からは、Stirling 大学で毎年2月に開催される Japanese Week において、JSA が後援団体として果たした大きな役割に対し感謝の辞を頂き、今後も JSA が日本における同大学の重要な提携機関として、更に連携を深めていきたいとお言葉を頂きました。竹鶴孝太郎氏からは、一緒に暮らした思い出の中に生きている祖母リタさんとマッサンの貴重なエピソードを伺いました。乾杯の後は、ウクレレ演奏者大橋彰彦氏が登場、歌手のマイク真木氏も絶賛する大橋氏の演奏は、ウクレレの優しい音色ながら力強さを感じる素晴らしいものでした。最後はプロヴァイオリニストの山内氏が、今年は4名のカルテットとして華やかな歌と迫力のある演奏で皆を圧倒。会場からは大きな拍手と歓声が湧き起りました。今年も才能あふれる会員の皆様を支えられ、参加者同士の交流も深まる有意義な懇親会でした。



Kerry Bryson 氏



竹鶴孝太郎氏



Stephen Baker 氏

左：
大橋彰彦氏

右：山内
達哉氏の
カルテット



Over the last two years Scotland's visibility on the world stage has increased. In 2014 we hosted the Commonwealth Games* and the Ryder Cup* two significant events that focused attention on Scotland. 2014 was also the year of the independence referendum*. The idea of Scotland actually becoming independent from the rest of the UK, and that there was a peaceful, agreed path to that actually happening captured the world's attention and brought Scotland onto the front page of all the major newspapers globally. The morning drama Masan also served to keep Scotland in the spotlight in Japan, resulting in a number of Magazines and TV shows looking to do articles or TV shows on Scotland. The most recent being "Tabi Salada" and "Elle a table".

This raised awareness of Scotland in Japan has made our job at Scottish Development International a lot easier, as when people are thinking about projects or international areas of collaboration it makes it much easier for them to think about Scotland and explore the possibilities of doing things together between our two nations.

The recent visit to Japan by Ms Hyslop, Cabinet Secretary for culture and External Affairs* also emphasised* the warm bonds that exist and that can be strengthened between our two nations through culture, design, fashion, music and art - these languages touch us all.

In this sense the work of JSA is extremely important, the student exchanges, Japan week, and the events in Japan all help keep the bond between our nations alive. Although it may not seem so because it's not a direct connection, the work of JSA is important not just because of the direct activities but also because of its feed more broadly into cultural, politics and business. I'd like to ask all of you, through JSA, to keep the connection between Japan and Scotland as vibrant* as you can. The meaning and importance of JSA's activities go far beyond the events it holds.



Seki-sensei created JSA to be an interactive organisation, one that though exchange and interaction opens up new possibilities for the future between Scotland and Japan. I hope we can all be active participants and share the vision.

注釈 the Commonwealth Games: コモンウェルスゲーム、イギリス連邦で4年に一度開催される総合競技大会, the Ryder Cup: ライダーカップ、ゴルフの2年に一度の世界大会, the independence referendum: 独立国民投票, Cabinet Secretary for culture and External Affairs: 文化・欧州・対外関係大臣, emphasise: 強調する vibrant: 活気に満ちた

スコットランド政府 フィオナ・ヒスロップ大臣来日について

日本でのスコットランド文化の盛り上がりを受け、スコットランド政府より Fiona Hyslop 文化・欧州・対外関係大臣が6月29日(月)より1週間来日し、文化・産業・学術分野における様々な交流が行われました。これに合わせて6月29日(月)、駐日英国大使館で開催された大臣来日記念レセプションでは、関会長が日本人初の Global Scot として長年にわたるスコットランド経済への貢献が称えられ、大臣より「荣誉殿堂」入りの記念の賞状と記念品が贈られました。また、本レセプションは JSA 会長、副会長と東京本部事務局スタッフがご招待を受けました。



関会長と Fiona Hyslop 大臣



左端 Stephen Baker 氏と中央 Fiona Hyslop 大臣、右から3番目山口副会長、右から2番目関会長とその他 JSA 事務局員



レセプションにて 中央に竹鶴氏を囲んで

スコットランド国際開発庁について

スコットランド国際開発庁 (SDI) は、スコットランドの経済開発機関を代表する国際機関であり、スコットランド企業の国際的な事業展開を支援するとともに、海外企業のスコットランドへの投資と事業の立ち上げをサポートすることを目的としています。SDI は世界中に 32 の事務所をもち、そのうちの 12 をアジアに置いています。SDI の日本事務所は 25 年前に東京に開設されて以来、70 社あまりの日本企業によるスコットランド進出を後押しする中心的役割を果たしてきました。現在、日本事務所には 9 人の職員が在籍しており、毎年およそ 100 社のスコットランド企業による日本進出および日本企業との提携を支援しています。SDI はスコットランド政府とは独立した機関として、政府の資金によって活動しており、支援対象企業の事業から商業的利益を得ることは一切ありません。このように SDI は客観的な助言を提供するパートナーであり、スコットランド企業と日本企業が相互に利益をもたらす関係を確立して事業を拡大できるよう、両者を同等に支援しています。



今年 5 月 29 日の総会で、JSA の活動について、皆様にご報告させていただきました。その概要は、JSA の活動が益々多岐に渡り活発になっていること、メディアや公的機関から Scotland について大変多くの問い合わせを受けるようになってきていること、このように JSA の認知度が高くなり、多くの方に興味を持っていただき、会員数も着実に増えているというもので、このような JSA の現状について、皆様にお伝えできたことを本当に嬉しく思っています。JSA の活動に当たっては、SDI、とりわけその日本代表 Stephen Baker 氏から本当に大きなお力添えをいただいております、この場を借りてお礼申し上げます。

6 月 29 日には、駐日英国大使館大使公邸で開催された Scotland の Fiona Hyslop 文化大臣の歓迎会に、JSA の理事、スタッフなどが招待され、大臣と親しく話をさせていただく機会を得ました。私ごとで恐縮ですが、その折に、2009 年に Global Scot (現在、20 名ほどが Scotland 政府のためにボランティアとして働いています。) に任命されてからの貢献に対して、大臣から直接、感謝状をいただきました。今後も、JSA と Scotland をさらに強固につないでいきたいと、心を新たにしました。

Scottish Samurai Award 2015

2015 年 6 月 20 日 アバディーン市庁舎にて、スコティッシュサムライ/ショウグンアワードが行われ、JSA 名誉会員である北岡氏と理事である片桐氏・ケイト氏が受賞しました。授賞式の様子は <http://www.scottishsamurai.org/> または Youtube にてご覧いただけます。

「将軍」アワードの重み・・・

在エディンバラ日本国総領事
北岡 元

外交官をやっていると色々なことがあるから、この歳になると大抵のことでは驚かなくなったが、さすがに「将軍」になるとは！6 月 20 日、雨上がりに建物が美しく光る「花崗岩の街」アバディーン。いかめしいタウンハウスでの授賞式。日英双方から叙勲されている空手の達人ワットさんが手渡してくれた侍の像の印象は「ひたすら重い！」。不覚にもよろけそうになった。同時受賞の片桐さん、ケイトさんの両理事は余裕だったが、ひょろい私にとっては、なかなか冷や汗もの。「何もしていないのに」というのが正直なところだが「もっとしっかりやれ！」という励ましの言葉を頂いたのだと思っています。

写真：左から Kate 氏、スコティッシュサムライアワード長 Ronnie Watt 氏、北岡夫人、北岡氏、片桐氏、アバディーン市長 George Adam 氏

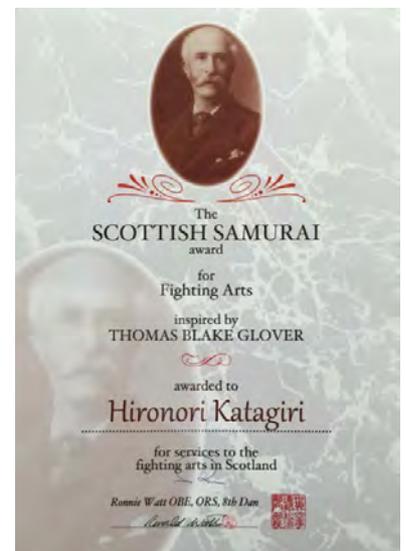


「Fighting Art」

片桐宏典

アバディーン市庁舎の荘厳な大広間で行われたアワード授与式典は、アバディーンの名人と凄腕の格闘家たちに取り囲まれ、その雰囲気私とケイトは緊張気味だった。さすが「将軍」の北岡総領事はいつも通りに招待客たちと談笑している。

式の最後に我々も賞状と記念のブロンズ像をいただいた。その授与書に「Fighting Art (戦う芸術) の功績を認めて」と書いてあるのを見たケイトと私は、顔を見合わせ思わず笑ってしまった。これが賞の創設者、空手八段ロニー・ワット氏の厳しくもユーモアの溢れる人柄だ。



写真上：片桐氏が授与された賞状
写真左：スコットランド国王直系子孫の Charles Bruce 卿から賞を贈呈された時の様子 (左から Kate 氏、Charles Bruce 卿、片桐氏、Ronnie Watt 氏)

JSA 本年度奨学金生のご紹介

2015 年度の名誉ある奨学金生に選抜された池田絵里香さんは、現在、スターリング大学で International Business の修士課程で国際ビジネスの実践的なスキルと組織論を勉強中です。将来、世界の経済に大きく貢献されることを JSA 一同期待しております。

Friendship between Stirling Univ. and 青森公立大学



左から香取真理教授、同大福土耕司理事長、香取薫学長、Gerry McCormac 学長、Stephanie Niven 氏、Maria Cid Castilla 氏

2015年8月18日、青森公立大学とスターリング大学の間で、友好連携協定の署名交換式がスターリング大学で行われました。署名交換式には、青森公立大学 香取 薫 学長 (JSA 東北支部長)、スターリング大学 Gerry McCormac 学長、開発・渉外次長の Stephanie Niven 氏、留学生担当の Maria Cid Castilla 氏、青森公立大学国際交流委員会副委員長 香取真理 教授 (JSA 東北支部) も参加しました。青森公立大学国際交流委員会委員長 藤井一弘教授 (JSA 東北支部) は今回出席できませんでしたが、この連携協定の締結にご尽力下さった一人です。

青森公立大学では、今年度から学生をスターリング大学のサマープログラムに派遣しています。今年は2名の学生がプログラムに参加し、4週間の素晴らしい体験をすることができました。

国民的詩人 Robert Burns の詩のイメージを書で表現 ~in Scotland

小澤 蘭雪

8月7日~11月1日、リンリスゴーのバーホールで開かれている展覧会、"Robert Burns へのスコットランド、イラン、日本からのオマージュ"。Burns の詩10篇をテーマに、スコットランド人彫刻家 Tim Choke 氏、イラン生まれスコットランド人医師 Jila Peacock 氏と日本書道の小澤蘭雪の3人がそれぞれの作品を制作、加えて公的機関から提供された Burns 直筆の原稿やその他の資料の写真とで一つの詩につき4点ずつ、さらに3人が1点ずつ大きな作品を出品、計43点が展示されています。

8月6日、オープニングパーティーが在エジンバラ日本国総領事北岡氏ご出席のもと開催され、Burns 生家美術館館長 Hopes 博士と出品者3人のギャラリートークが行われました。1600年代に再建されたバーホールは Burns を語るにはぴったりの会場で、多くの立ち見の参加者で賑わいました。また、熱心な参加者から質問、意見が相次ぎ Burns のスコットランド愛とともにスコットランドでの Burns 人気を実感されました。そして JSA の片桐氏によるご挨拶で閉会となりました。



「赤い赤いバラ」を題材にした作品の前で
左から Jila Peacock 氏と小澤蘭雪氏

St. Andrews Society 主催のスコティッシュダンス

濱田真梨子

7月9日に赤坂インターコンチネンタルホテルにて行われた、St. Andrews Society 主催のスコティッシュダンスのクラスに参加させていただきました。スコティッシュダンスは、男女ペアを2~4組ほど集め1つのグループとなり、ペアを基準に様々なステップが組み合わされたセットダンスを1つの曲が終わるまで踊るものです。スコットランドの民謡をベースにしたリズムのある音楽とともに踊るため、音楽が流れるだけでスコットランドにいる気分になります。スターリング大学での語学留学時、様々なパターンの伝統的なスコティッシュダンスを教えていただき参加した Cèilidh を思い出す、とても素敵で活気の溢れるクラスでした。クラスはアイリッシュダンスやタンゴを習得されているダンス上級者の方から、私のような初心者まで誰でも気軽に参加できます。また、スコットランド出身の方からベルギーなどそれ以外の出身の方々もいらっしゃいました。そのような方々と一緒にセットダンスを覚えながら一つひとつの曲を踊ることで、仲間意識を高めながら楽しい時間を共有することができました。

Stirling says thank you to JSA

Director of Development & External Affairs University of Stirling, Scotland
Kerry Bryson

It was a great pleasure for Professor Malcolm McLeod, Deputy Principal*, and myself to attend the Japan Scotland Association meeting and reception at the British Embassy in Tokyo on 29 May to reflect on the excellent work of JSA over the past year. I am proud to be a member of JSA and to play a part in promoting friendship and exchange between Scotland and Japan.

The University of Stirling has had three highly successful Japanese weeks – and they have flourished because of the help of Dr Taeko Seki and many, many JSA members. The University warmly thanks JSA for all their support especially those members who have travelled to Stirling to enjoy the week of shared culture. People who deserve a special mention include Dr Isamu Ichige for donating the wonderful art books, Ms Hisa Kagawa who shared her tanka poems, and artists Kate Thomson and Hironori Katagiri who support the programme every year. In 2013 Mr Haneda gave a lecture on calligraphy* - and when Atomi University generously donated calligraphy kits the Japanese students became the teachers. We now enjoy tea ceremonies, Japanese language taster sessions, and concerts, with kotos donated by Waseda University and Dr.Seki. This year included displays from the National Bonsai Collection of Scotland and a photographic exhibition from the JET Programme*. We have had many wonderful guest speakers including Mr Arima from JETRO* London, Dr.Stephen Baker* of SDI, and a keynote address by the Consul General of Japan Mr Kitaoka entitled 'Scotland as I see it' – a humorous view on Scotland and its people.

The spring and summer schools for Japanese students continue to flourish and we look forward to welcoming more students to campus in 2016. The University is already planning for Japan Week 2016 and hopefully violinist Mr Yamauchi will perform next year. Japan Week enriches the learning and experience for all our students and staff, across every nationality. In today's world, gaining a global perspective is critical for all of us. JSA proves there is no end to what can be achieved when people from different nationalities come together – because our humanity unites us, and our cultural diversity enriches us all. Thank you.



注釈 Deputy Principal:副学長、flourished: 繁栄する、calligraphy:習字、JET programme: the Japan Exchange and Teaching Programme、語学指導等を行う外国青年招致事業、JETRO: Japan External Trade Organization、独立行政法人日本貿易振興機構 (ジェトロ)

~Glasgow Then~ Kate Thomson

In 1984, when I was 22, the Scottish Arts Council awarded me a 3 year contract as a community artist for the Gorbals*, Glasgow. The area had a rough reputation* and was notorious* for the failed architectural experiment of high-rise social housing* that had quickly become new slums. Armed only with* a flimsy* piece of paper saying I had a university degree in Fine Art, and handicapped by a posh Edinburgh accent, I nervously turned up for my first day of work. How could I satisfy the hunger for quality and beauty in this concrete wasteland*? The local community was incredibly welcoming and my education began in earnest*.



Photo of "Glasgow Life" mural 1987

One group of local children I was working with wanted to brighten up the entrance lobby to the concrete tower block they lived in. They proved to be articulate* artists with a keen sense of how to explore their world. The result was the ceramic tile mural in this picture.

What I learned is that people are far more sophisticated* than many cultural organisations give them credit for*. Art is a language that can help people understand and articulate the complexity of their world.

All I needed to do was nurture* visual literacy*: show examples of the best, teach basic technical skills, and never patronise* by assuming* they would only appreciate* pop culture or easy narratives*.

After 3 years working with the Gorbals community I wanted to explore ways public art could enhance and improve the social environment. So began a journey that led me all over the world and to Japan. Most of the Gorbals area has been re-built again over the last two decades. Oatlands, at the east end of the Gorbals, was demolished* several years ago and is now 5 years into redevelopment. As part of this regeneration I have been commissioned* to make public artwork for the central Oatlands Square. It is wonderful to be working back in the area that first inspired me; and back in touch with some of the children in this photo, now in their 40's, I am flattered* they still remember me. The finished "River Spirit" sculpture will be unveiled on 23rd September.

注釈 Gorbals: グラスゴー南部の地域, reputation:評判, notorious:悪い意味で有名な, high-rise social housing:高層の公営住宅, armed only with:~だけ携え, flimsy:薄っぺらい, wasteland:不毛の地, in earnest:本格的に, articulate:明確に表現する, sophisticated:洗練された, credit for:認める, nurture:育てる, literacy:教養, patronise:軽蔑する, assuming:思い込む, appreciate:良さがわかる, easy narratives:子供向けの小説や物語, demolished:取り壊す, commission:任務, flatteren:喜んだ

~Edinburgh Now~ 片桐宏典
Edinburgh International Festival

エジンバラ・フェスティバルが始まった。コスチューム姿のチラシ配りとポスターが街中に溢れ、ストリートパフォーマンス満載の High Street からエジンバラ市街すべてが劇場となる。分厚い電話帳のようなイベント・プログラムが Official、Fringe、Fringe の Fringe と毎年拡大するフェスティバルのエネルギーを物語る。

フェスティバルの中でも、地元の住人たちに人気のある「ブック・フェスティバル」について今回書こうと私は密かに決めていた。ホヤホヤの新刊書をご披露しながら講演会やサイン会に大勢の人が集まる。その会場となる Charlotte Square Gardens の中庭は伝統的なティーガーデンとなり、ひなたぼっこしながら本を読む人や会場で出会った友人たちと談話する風景は、観光客が行列を作るイベントとはひと味違ったアットホームさが溢れている。デジタルなんぞまだまだまひよっこ、本好きの英国人たちが胸を張っている。



しかし、今年のメインイベントである「Antigone」の舞台を観て、これは書かなければいけないと思った。内容については御存知の方も多いので説明は省くが、クラシックで壮麗な Kings Theatre に、あまりにシンプルなオフィス風の舞台と巨大な太陽のような照明、そこにスーツとネクタイ姿のクレオン王とカジュアルなアンディゴネ、役者たち7人がインターバルのない1時間にエネルギー溢れる圧倒的演技で神話特有の人間臭さをこれでもかと我々に降り注ぐ。劇の速いテンポとは裏腹に、背景は中東の街並の雑踏や砂漠の自然をゆっくりぼんやり映し出す。観客は賛否両論。しかし多くの紛争を抱え狂気が現実化している現代社会への強烈なステートメントとなって、ギリシャ悲劇はみごと現代に甦る。

久しぶりにアートの力を確信する凄い演劇に出会った感激でいっぱいだ。ここは新鮮な驚きと喜びを与える世界最大のカルチャーフェスティバルである。

～スコットランドから来訪された方々～

Professor Gerry McCormac & Ms Jennifer Harrison

2015年4月17日～23日: Stirling 大学学長の Professor Gerry McCormac と External Affairs 担当の Ms Jennifer Harrison が来日。参議院議員の古川俊治先生を国会に訪ね、Japan Centre 設立の件を含め、日本とスコットランドの関係を更に深めていくことをテーマに会談しました。同行した SDI の Dr. Stephen Baker と私、関妙子も、古川先生に、JSA への協力をお願いしました。Japanese Week に関しては、国際交流基金の会長の安藤氏との Meeting、認知症研究で Stirling 大学との共同研究を希望している都庁との Meeting (認知症研究で、Stirling 大学は世界のトップクラス)、Olympics 関係者との Meeting (London Olympics に協力した Stirling 大学の経験を参考にしたい) など、秒刻みの Schedule でした。



左から Stephen Baker 氏、Professor Gerry McCormac、古川俊治氏、関会長、Jennifer Harrison 氏



早稲田大学を訪問され、学生と交流される Macleod 副学長 (左から1番目) と Kerry Bryson 氏 (同2番目)

Professor Malcolm Macleod & Ms Kerry Bryson

2015年5月26日～31日: Stirling 大学副学長の Malcolm Macleod と External Affairs Office Director の Ms Kerry Bryson が JSA の年次総会出席のために来日。副学長にとっては初来日でした。Ms Bryson は Japanese Week 運営の責任者であり、総会では、Ms Bryson から、その経験も踏まえた素晴らしい Speech をいただきました。来日中は、Stirling 大学と提携している早稲田大学と跡見大学を訪ね、学生たちと親しく交流しました。

各支部活動報告

JSA 九州

関会長の御尽力により始まった宮崎公立大学と Stirling 大学との学術協定も、今年で早4年目を迎えました。今年は5人の学生が夏季留学を予定していたので、7月17日に宮崎公立大学で担当教授出席のもと、留学の諸注意事項をレクチャーさせて頂きました。その他7月27日に、日本で開催された「第23回世界スカウトジャンボリー」で、宮崎を訪れた英国ハンプシャー州「Hampshire Flappy Fish」のスカウトメンバー20名の歓迎式典の手伝いをしました。今後の予定は宮崎青年会議所主催の「第5回 手をつなごう! みやざき国際フェスティバル」の英国ブースにも参加する予定です。



JSA 関西

年次総会・パーティー

山口副会長ご参加のもと、6月21日神戸・三宮の神戸倶楽部で参加人員30名で開催。来賓は関西セントアンドリュース協会の Chieftain Mairi Fraser さんとトマス井塚さん、関西ウェールズ会の大賀さん。デニストンさんの Address to a Haggis 暗誦の「ハギスセレモニー」で始まり、食事の後はデニストンさんのパウロンと詩と唄、京大教授ジョンマッシュューズさんも友情出演。恒例のラムゼイパイプバンドはパイパー4名とテナードラムという大編成。ハイランドダンスも交え、最後は“Auld Lang Syne”で盛り上がりしました。

関西支部 その他の活動

- ・ハワットメモリアル at Suntory 3月22日 サントリー山崎蒸留所 参加人員32名 講師はサントリーの角田さん。蒸留所見学の後、シングルモルト7種類を試飲。
- ・アフタヌーンティーの集い 4月12日 神戸倶楽部 参加人員45名 スピーカーは関西セントアンドリュース協会の Chieftain Mairi Fraser さん。ご出身のヘブリディーズ諸島について、民謡や労働歌を交えて、素晴らしい声で聴衆を魅了されました。
- ・スコットランド料理教室 4月26日、6月28日 両日ともに参加人員14名 講師モード・ラムゼイさん 4月は Chicken in Cider、6月は Cabbie Claw がメインのレシピ。
- ・「Main Bar」での英会話教室 5月23日は7名、9月12日は9名が参加。講師モード・ラムゼイさん 足かけ6年にわたった蒸留所訪問編が終了して新シリーズに突入。

JSA 東京

東京本部では、毎月第2土曜日17時～18時半に Discussion in English (新宿区)、第3土曜日15時～16時半に一般英会話教室 (大田区) を継続的に行っています。12月にはスコットランド料理教室を開催し、スコットランドのクリスマスをテーマにクリスマスマズディングを作製します。更に来年2月13日 (土) 15時～文化公演会と奨学生帰朝報告会と Dinner party を早稲田大学国際会議場セミナールームで開催します。是非、ご参加下さい。詳細は、HP でご確認下さい。



JSA 会員紹介

「マイスター工房 宝梅の会」 原 啓 Hara Akira

季節の美味しい手づくりジャムを製造販売されている原氏は、世界中のマーマレード職人が競い合う、「世界オリジナルマーマレード賞」職人部門にて、2014年度、2015年度と二年連続（シルバー）銀賞、（ブロンズ）銅賞受賞という素晴らしい名誉を勝ち取りました。「ジャムは紀元前から果物と蜂蜜を使用した保存食だったようで奥深い歴史ある品です。」と語る原氏。フードアクション・ニッポンアワードにも入賞した海藻を使ったわかめジャムなど様々な美味しいジャムを世に送り出しています。

尚、宝塚市において、『モノ・コト・バ宝塚』宝塚ブランドに選定され、宝塚ふるさと納税商品にも選定されています。

<https://www.facebook.com/meister.atelier.houbai>

meister.atelier@gmail.com

☎665-0013 兵庫県宝塚市宝梅 3 丁目 2-28



ひなた CAFE 村松 陽子 Muramatsu Yoko

静岡県浜松市で、ジャムとマーマレードの製造販売をしています。地元食材メインに旬にこだわったジャムを季節に応じて10種類程揃えています。

今年、英国で開催された世界オリジナルマーマレード賞において職人部門で銀賞と銅賞を受賞いたしました。この賞を通して、マーマレードが英国人にとって如何に大切な食文化かがわかりました。マーマレードを通して、マーマレードの発祥の地であるスコットランドとの交流を深めていけたらと思っています。<http://hinata-cafe.blog.so-net.ne.jp/>

hinata.cafe1203@gmail.com

☎431-0201 浜松市西区篠原町 21783

世界オリジナルマーマレード賞とは…

英国で2005年に50瓶からスタートしたこの賞は、今年は世界各地から2700瓶を超えるマーマレードの大会となり、部門ごとにダブル金賞、金賞、銀賞、銅賞が競われました。この賞の受賞者は、その受賞マークを瓶に貼って販売することが許され、名誉あるダブル金賞受賞のマーマレードは、ロンドンの老舗デパート フォートナム&メイソンで販売するチャンスを与えられます。スコットランドのダンディー市は英国の中でもマーマレード発祥の地として知られ、エリザベス女王に表彰される素晴らしいマーマレードを世界中に送り出しています。

世界オリジナルマーマレード賞 HP 参照

<http://www.dalemainmarmaladeawards.co.uk/cms/competitions.php>

Oatlands Square Art project



除幕式にて 左から Neil Davidson (Bett Homes), Kate Thomson, 北岡総領事、片桐宏典

オートランズ住宅地開発はグラスゴー市ゴープルズ地区再開発の中心的事業として2005年から始まりました。以前、スラム化した高層住宅建築を取り壊し、安価で良質な中低層建築がクライド川に沿った緑豊かなエリアに建設され再整備されつつあります。

地区のコミュニティ形成促進と景観美化を目的としてアートが導入されることとなり、その第一回公募コンペで当協会理事ケイト・トムソンがプロジェクトを獲得し、2014年10月から地元の子供たちとのワークショップ開催とアバディーンシャーで制作開始、9月23日に無事竣工、除幕式が行われました。

当日は、コミュニティ活動紹介のブースが沿道に設けられ、地元小学校のコーラス団も参加して多くの人々で賑わいました。式典にはグラスゴー市および事業関係者のもとより、当協会名誉理事の北岡日本国総領事も日経新聞欧州総編集局の小瀧記者と一緒に駆けつけてくださいました。(片桐宏典)

子供たちとのワークショップ風景



製作風景



完成風景



左から Kate, Libby McArthur, Theresa Barbour (Bett Homes), 片桐氏とゴープルズ地区コーラスの子供達

"Burns Supper"イベントに参加して 竹内誠也

*毎年2月に開催される Burns Supper の、2015年2月の回に参加された時のご報告です。

先日2月6日(金)夜に港区麻布台の東京アメリカン・クラブのバンケットルームにて行われた St. Andrews Society 主催の"Burns Supper"イベントに、関会長・山口副会長とともに出席しましたのでご報告します。"Burns Supper"とは、18世紀のスコットランドの詩人である Robert Burns を讃えるために毎年1月末前後に行われるフォーマルなディナーとダンスのイベントです。今年もディナージャケット(タキシード)またはカクテルドレスなどで正装をした出席者が、英国人ほか合わせて100名超集まる盛大なイベントとなりました。



例年どおりバグパイプによる開会の調べとカクテルから始まるフルコースのディナーの後に、バグパイプとドラム楽団の演奏とともにスコットランド名物の"ハギス"とスコッチ・ウィスキーが饗されました。その後、スコティッシュ音楽の演奏とともに行われるスコティッシュ・カントリー・ダンス("ケイリー"ダンスと呼ばれます)にも参加することができ、大変華やかな一夜となりました。正装した大規模な参加者によるダンスは素晴らしく壮観なものでした。今後ともイベント交流などスコットランド交流協会では St. Andrews Society との協力が進められるようですので、ぜひこれからも機会があれば積極的に参加していきたいと思っております。

お知らせ

*「Japanese Week 体験ツアーの参加者募集のお知らせ

期日:2016年2月20日から27日(日本着28日)

宿泊先:Japanese Week が行われるスターリング大学の関連施設

内容:Japanese Week(2月22日~25日)を楽しむとともに、世界遺産都市エディンバラ、産業革命の中心となったグラスゴーを訪ね、ウィスキー蒸留所見学などを行います。ツアーリーダー:前原正人理事

*「スターリング大学春期英語研修(7週間:2016年2月8日~3月26日)」参加者募集

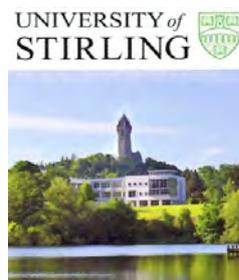
7週間の英語コースで本格的に英語の習得を目指したい方ご参加ください。

18歳以上であれば、英語能力や年齢の制限はありません。

クラブ活動に参加するなど現地の学生との交流が図れます。4,5,6週間の参加も可能です。

経費:学費、寮費、週末旅行(エディンバラ、グラスゴー、セント・アンドリュース、ネス湖一泊)すべて含んで約4200ポンド。

Flight代と生活費(自炊で1週間5000円程度)は別途支払いが必要です。



上記にご興味のある方はお気軽に JSA 事務局まで連絡ください。会員のご家族、ご友人の方の参加も歓迎です。

締め切り:11月30日 【お問い合わせ】東京本部 TEL/FAX 03-5988-8785 携帯 090-7192-4650 E-mail: info@jpn-scot.com

【本部・各支部イベントのお知らせ】

@東京本部

・文化講演会及び奨学金生留学報告会と Dinner Party

2016年2月13日(土)15時~17時 早稲田大学国際会議場セミナールーム7

17時半~19時半 Dinner Party 早稲田大学大隈会館「楠亭」参加費:5000円(講演会費と食事込み)

文化講演会-メインスピーカー:スコットランドフィドル東京 代表 種子田敦子

コメント:かつて、グラスゴー市の RSAMD(Royal Scottish Academy of Music & Drama)にて、Violin の勉強中に、現地フィドラー Mr.Ian Fraser 氏の Scottish Fiddling Lecture(Recital)を受講し、のどかなスコティッシュ"民謡"と"舞踊"の楽曲をご紹介したく、JSA に入会させて頂きました。ヴァイオリン演奏と解説をお聞きくだされば嬉しいです。

・英会話教室:Discussion in English(毎月第2土曜日17時~18時半、新宿区関会長宅)、

一般英会話(毎月第3土曜日15時~16時半、大田区山口副会長宅)

・スコティッシュ料理教室~スコティッシュキッチン~:12月12日(土)11時~13時 クリスマスプディング他 新宿区関会長宅

@関西支部

10月18日(日)西宮夙川公民館で料理教室を、また11月14日(土)芦屋メンバーで英会話教室の予定です。講師はモード・ラムゼイさん。この料理教室と英会話教室以外に、10月31日(土)「JSAウィスキー倶楽部」(仮称)を芦屋・メンバーで企画しています。モルトを飲み比べ、かつ話し合おうというものです。また、11月21日(日)にハワットメモリアル at Suntory をサントリー山崎蒸留所で、12月には宝塚・仁川のカフェ「ハッセルハウス」で忘年会を兼ねた茶話会を計画しています。

上記、詳細は JSA ホームページ <http://www.jpn-scot.com/> または Facebook にて連絡します。

編集後記

発足から時間を重ねるごとにスコットランドと日本の関係性を深める活動が多くなってきているように感じています。各地の支部での活動がこのニュースレターを通して結集していく様子を、編集長自身、支部のない地方から拝見しています。



日本スコットランド交流 協会



東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-12-28-1401, Tokyo Headquarters:3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033

関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町 2-5-3-906, Kanai Branch:2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082

中国支部 〒730-0814 広島県広島市中区羽衣町 13-12, Chugoku Branch:13-12 Hagoromo-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0814

九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島 2-23-2, Kyushu Branch:2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032

東北支部 〒030-0196 青森県青森市合子沢山崎 153-4 青森公立大学 香取真理研究室内 香取薫, Tohoku Branch:Kaoru Katori, Prof Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196